

Introduction

寮跡地, その後…

(縁あって)志木高の北側に面して建設中のマンション『志木ガーデンヒルズ』の敷地内を歩くことができました。337世帯を収容する14階建てマンションは、本校の寮跡地に建設が決まった時点で周辺住民から樹林の保護運動が起こり、現在、イチヨウやムクロジの古木等を極力保護する方向で建設が進んでいます。

イチヨウの巨木は新たに根を張り、ムクロジは今年も新たな花を咲かせていました。林床の稚樹も順調に生育しているようです。この武蔵野雑木林の面影を残そうとしているのは有志の近隣住民の方々です。しかし、自然保護運動には乗り越えなければならぬハードルがいくつかあります。

自然保護活動は、その原動力の多くが『感情的な動機』です。一方で、自然保護は、保全生態学等の学問分野に支えられる『科学的理論』です。この両者のバランスが図られずに感情的動機のみで自然保護を進めると、地域の遺伝子プールの特性を完全に無視して『とにかくホタルを呼び戻そう!』という誤った保護活動に暴走していきます。

本校は周辺地域の中で限られた樹林生態系を維持していますが、これを保護するには学校『内外の』冷静な眼と深い思慮が必要になります。



ヤブガラシ, カラスウリ…ツル植物の光と陰

7月初旬の現在、校内の各所に『ヤブガラシ』というブドウ科のツル性植物が繁茂し、オレンジ色の小さい花を咲かせています。この植物は繁殖力旺盛で、他の植物の上に葉をひろげて枯らしてしまうので「藪枯らし」と名づけられました。林を被うようになると木を枯らして、その家は貧乏になるということから別名『ビンボウカズラ』とも呼ばれます。花は蜜を集める小昆虫で賑わっていますのですぐわかります。日当たりの良い草地には必ず生えていますし、この学校でも頻繁に見かける昼間のツル植物です。

一方で、濃い緑で表面がビロードのような細かい毛で被われたツル植物に「咲き終わった」白い花がついているツル植物を校内で見かけることがあります。これは、ウリ科の『カラスウリ』です。この花は白いレースのような縁飾りを持つ綺麗な花で、一見の価値があります。ただし、開花時間は夜で、夕刻20時くらいから咲き始め、朝方にはしぼむ、夜に目立つツル植物です。秋口には鮮やかな橙色の実をつけます。食用や薬用として価値が高く、生育地が人家に近い事から、救荒食用に意図的に植えられたと考えられます。

(Miyahashi)

志木の自然[卯月(4月)～文月(7月)]

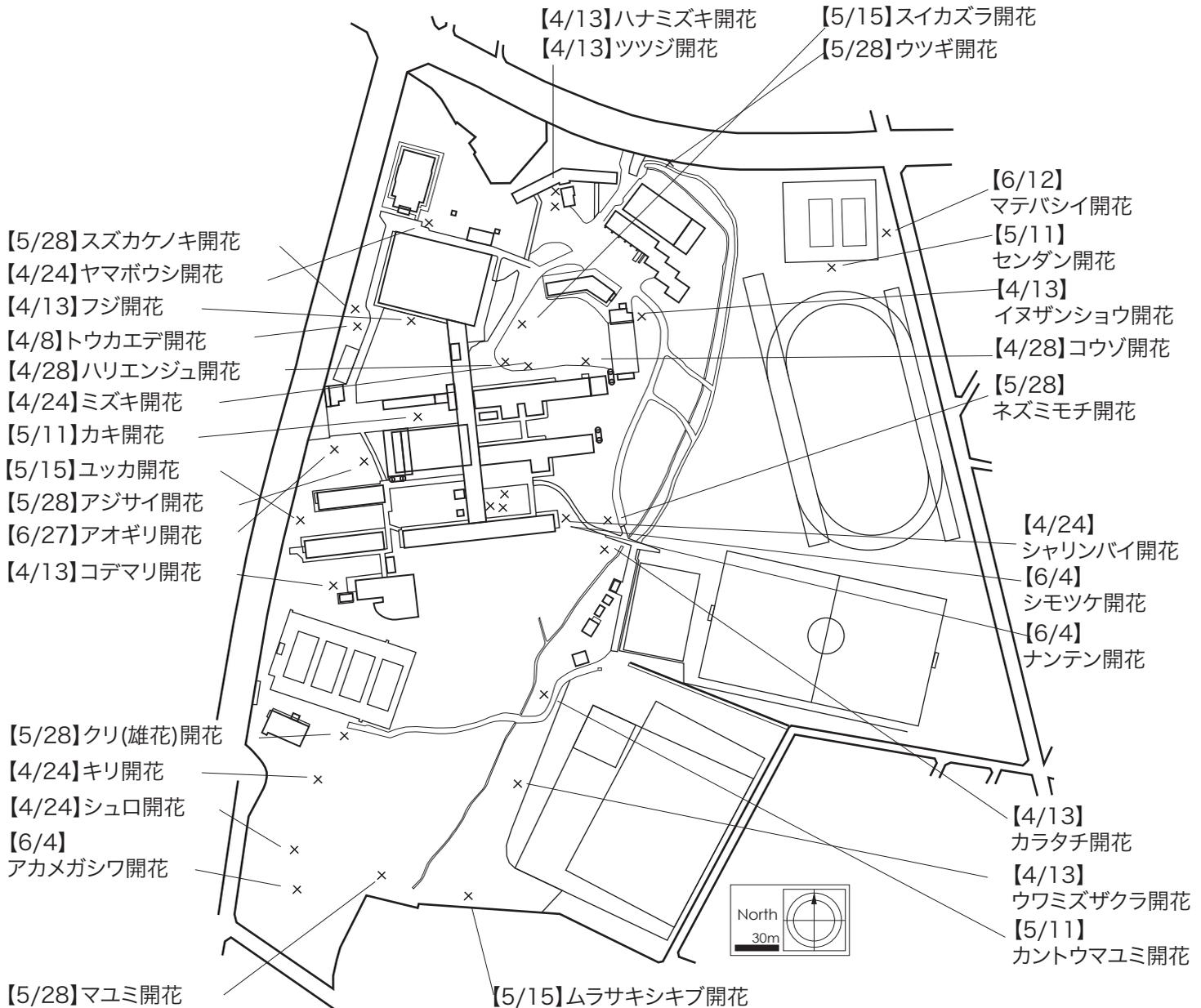
Plants [2004年4月～2004年7月までの記録]

初夏に向かうこの時期は7月が近づくにつれて、開花する植物は減っていく。

Grass

- 13th Apr. 2004 タチイヌノフグリ、スノーフレーク、オランダミミナグサ開花。
- 17th Apr. 2004 フデリンドウ開花。
- 24th Apr. 2004 オオジシバリ、ツボミオオバコ開花。
- 28th Apr. 2004 フモトスミレ、アカバナ、ムラサキカタバミ、ニワゼキショウ、
ホウチャクソウ、フタリシズカ開花。
- 11st May. 2004 イヌガラシ、ノミノツツリ、コヒルガオ、アズマネザサ、ノビル、
ドクダミ、ヒメムカシヨモギ開花。
- 28th May. 2004 イシミカワ、イヌホオヅキ、ムラサキツユクサ開花。
- 4th Jun. 2004 ハキダメギク、ギシギシ、ヨウシュヤマゴボウ開花。
- 12th Jun. 2004 トキワツユクサ、タケニグサ、オオカナダモ、ベニバナボロギク開花。
- 18th Jun. 2004 アメリカフウロ、ネジバナ、エノコログサ、ハエドクソウ開花。
- 7th Jul. 2004 フタリシズカ、ヤブマオ、ミズヒキ、ヘクソカズラ、カラスウリ、
ヤマノイモ、ホタルブクロ開花。

Wood



この限られた紙面では、名前の出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。名前を手がかりにぜひ図書館で一度調べてみてください。

(Miyahashi)

2000/5/30	カルガモの雛18羽誕生
8月上旬	うち6羽が巣立つ
2001年	抱卵中にカラスが侵入し卵を食べてしまう
2002,2003年	カルガモは飛来したが雛が孵ることはなかった
2004/04/03	カルガモ飛来
2004/06/09	カルガモの雌抱卵を確認
2004/06/26	7羽の雛が誕生
2004/06/30	6羽の雛がいなくなった
2004/07/07	現在、雛は1羽
	順調に育てば新学期が始まる頃巣立つ予定

カルガモは例年3月下旬頃、志木高に飛来する。今年私がカルガモを確認したのは4月3日。その後、つがいで泳ぐ姿を数回確認したが、4月、5月の間は産卵するような気配はなかった。6月9日前後に3日ほど雌が抱卵する姿を確認。ここ3年間、雛は孵っていない。新校舎が建ち、環境の変化がカルガモの産卵を困難にしているのではという心配もあった。しかし、6月26日、カラスの侵入を防ぐよう宮橋先生が工夫された新しい巣箱の中で7羽の雛が孵った。4日後の30日、池から出歩いている雛が見られてから、6羽の姿が確認できなくなった。カラスかネコ、タヌキなどに食べられてしまった可能性が高い。

今現在言えることは、次回雛が孵ったときには、ヨシズでも何でもいいので防火池に簡単な囲いをして、余り早くから雛が池の外に出ることは防いだ方がいい、ということである。再び雛をむざむざ食われてしまうことは我慢できそうにない。ただ、囲いをするのがカモにとっていいことなのかはわからないし、いつまで囲いをつけておくのかも問題だ。雛たちは校内を歩き回って、葉っぱやミミズなどを自由に食べて育つので、ずっと囲いの中に入れておくわけにはいかない。

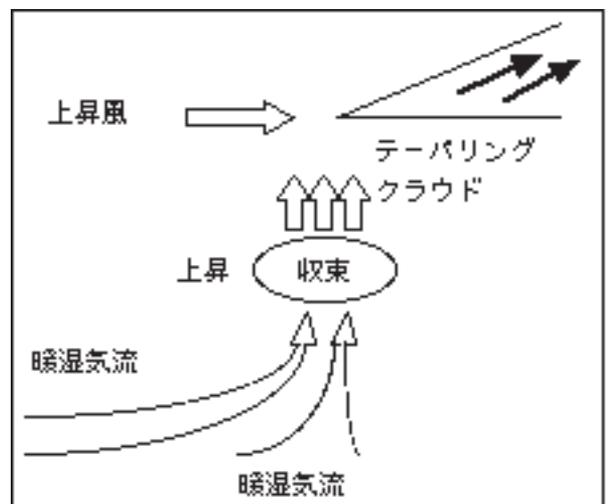
(Hayami, J.)

テーパリングクラウド

Meteorology

普段何気なく見ている気象衛星画像。台風ばかりに目が行きがちですが、梅雨前線の雨もある所ではしとしとと降り続く弱い雨でも、別な場所では大雨や集中豪雨になることがあるので注意が必要です。

梅雨前線に関係した雲でテーパリングクラウド (Tapering cloud) というのがあります。積乱雲が上層まで発達し水平方向に広がる雲(いわゆるかなとこ雲)が上層の風に流されるところを、気象衛星画像で見ると筆の形やにんじんの形になることから、別名「毛筆状積乱雲」または「にんじん状の雲」とも言います。この雲の穂先部分の下には湿った空気が収束していて強い上昇気流があって、豪雨の他に突風、雷、降雹などの顕著な現象を伴うことが多いのです。特に、この時期はしつぜつ湿舌※と太平洋高気圧の西縁を回って流入する暖湿気流が大気下層に広がっていて、大気不安定な状態が続きます。



※対流圏下層で湿潤域が温度と水蒸気の移流に伴い、かなりの広さで舌状に伸びているところ。日本列島には、インドのモンスーンの影響でタイ、ベトナム、中国南部、南シナ海を經由してやってくる。

(Higuchi)

軽鳧の子の一羽に減りし

事件かな

英

今回の句は、本井英先生に作句をお願いしました。

「軽鳧の子」は、六月の季題です。因みに最初の二文字は『かる』と読みます。六、七月ごろ、カルガモの親が田や池のほとりをヒナを引き連れて歩く様子を「かるの子引き」といいます。親がヒナを背に乗せて泳ぎだし、途中でわざと身を沈めることで子に泳ぎを教えるようです。

二千年春を最後に本校でカルガモが雛を孵すことはなかったのですが、今年は七羽が孵りました。しかし、翌日には一羽に減っていました。カラスかネコに襲われたものと思われます。

第二回 志木高内自然観察会

下記の通り、校内の自然観察会を行ないます。今回のテーマは夏の動植物です。興味ある方は参加してみてください。

記

日時

7月13日(火曜日)15:30-16:30
【雨天→7/16, 13:30-14:30】

集合

15:30【生物実験室前ピロティ】

解説文 文責 宮橋

執筆・担当区分	俳句	本井 英 (Motoi)
	天文・気象	樋口 聡 (Higuchi)
	鳥類・植物	速水 淳子 (Hayami)
	植物・小動物[&発行責任]	宮橋 裕司 (Miyahashi)